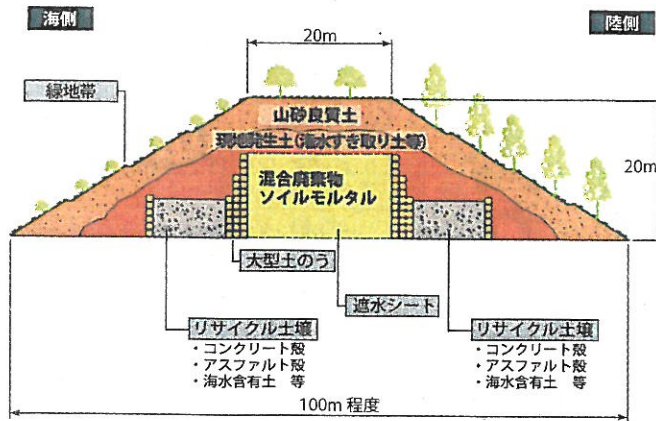


災害廃棄物有効利用のイメージ



# 震災がれきりで堤防回廊

## ライフサイクルマネジ研が提案

社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会(有岡正樹理事長)は、東日本大震災の津波で発生しがれきを迅速かつ有効に活用するための提言「3・11グリーンヒル構想」の報告書をまとめた。混合廃棄物をソイルモルタルで固めた部分を核にして、その外側を現地発生土や山砂良質土で覆い、丘や堤防状の回廊を緑地帯として設けることで、がれきの処理と有効活用を両立させるといふ案。規制緩和や民間活力の導入などにより、コストの大幅な削減も可能になるとしている。

震災被災地のがれき処理 めた。

については、既に方針が出 同構想では、東日本大震災されて処理が進められてい 災の津波被災地のように、るが、同研究会は、今後の 大量のがれきや塩分を含ん 災害時に参考にしてもらっ だ汚泥・土砂が生じた場合 狙いも込めて報告書をまと には、これらを現地で処理

## 民間活用しコストダウンも

する「地産地消」的な発想 維持管理・用地費などを含 が必要だと指摘。具体策と めた概算費用を算出。国が して、墳丘を造って将来的 進めているがれき処理のコ ストが公表されていないの には緑地帯(グリーンヒル) を整備することを提案し た。

その上で、堤体の安定性 や、有害廃棄物の漏えい・ 拡散の防止、超長期的な持 続可能性など求められる対 応も検討。ソイルモルタル との混合によるがれきの固 い込みや、止水シートの設 置により、有害廃棄物の漏 えいなどを防ぐことなどを 盛り込んだ。

事業コストについては、 上辺が50センチ、底辺が170 センチ、高さが30センチといふ台形 の断面形状で、墳体延長が 2500メートルというケースを対 象に、調査費や建設工事費、 が可能になるとしている。

現在、がれき処理、減 災丘陵の築造、メモリアル 公園の整備、津波堆積物の 処理などを複数の省庁で分 担して管轄している。報告 書は、これらの事業を一体 化し、規制緩和や民間の資 金・活力の導入などを進め ることで、大幅にコストを 削減できる可能性があると 指摘。事業統合とPPP・ PFI方式などの活用によ ってほぼ40%のコスト削減

(第三種郵便物認可)

スリム Japan

# がれき迅速大量処理

## 緑の墳丘・回廊構想 高潮防護堤体構築

NPO法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会(スリムJapan)、有岡正樹(理事長)は、東日本大震災で発生したがれきの処理をめぐってこれまで実施してきた調査・検討、提案活動の報告をまとめた。震災発生後、スリムJapanは現地調査などを実施、大量に発生したがれき迅速に処理する手法として、緑の墳丘・回廊構想「3・11 Green Hill」をまとめ、関係する地方自治体などに提案してきた。報告書は、今後発生が懸念される巨大地震に

対する備えとして関係機関に役立ててもらいたい考えだ。3・11 Green Hill構想は、遮水シートの上で混合廃棄物をモルタルで固めて堤体のコアとし、その両サイドにコンクリートがらを配置、全体に灌水すき取り土壌、良質土を被せて高さ20センチ以上の堤体を構築する。この堤体は高潮防護機能を持つと同時にメモリアル公園としても機能させる構想だ。整備にはPFIなど民間資金を活用し、資金調達を支援するファンドの創設も提言した。複数省庁にまたがる事業を一括で実施することで、通常のがれき処理に比べ最大4割程度のコストダウンを見込んでいる。

がれき処理の遅れが復興事業の遅れにつながる懸念から、こうした提案をまとめるに至った。具体的な構想の検討はゼネコンやコンサルタント、NPOなど計15法人の協力を得て進めた。現地調査などを経て実際に自治体に提案し、一定の手応えはあったものの、結果として採用は見送られた。報告書では「がれき処理の議論があまりにも硬直化している」と指摘している。

今後、巨大地震の発生が懸念される地域があるほか、混合廃棄物の広域処理問題が再燃する可能性もあることから、スリムJapanは今回の報告書を関係機関に参考にしてもらいたい考えだ。